

文化の高山



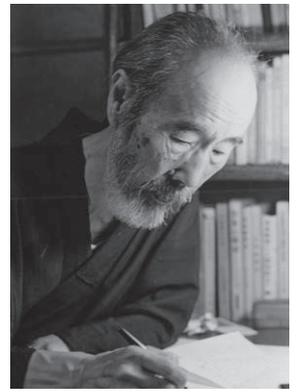
No.257 2025.1.1 Culture in Takayama 謹賀新年

一般社団法人 高山市文化協会発行

高山市昭和町1-188-1 高山市民文化会館内 Tel.0577-34-6550 Fax.0577-34-6877
メール●mail@takayama-bunka.org ホームページ●https://takayama-bunka.org
文化情報番組「すばらしき文化の和」 HitsFM(76.5MHz)金曜午後1時30分より放送中



／飛騨の文豪シリーズ／



江馬 修(えまなかし) 明治22～昭和50

小説家、思想家

上京し山田花袋の門に入る。大正5年の長編『受難者』がベストセラー。関東大震災を経て社会主義に関心をもちマルクス主義に傾倒。思想弾圧により飛騨へ帰り、代表作となる長編『山の民』を執筆する。戦後、再度上京し『本郷村善九郎』などを発表。

年頭のご挨拶

文化によるまちづくり



(一社)高山市文化協会
会長 河渡正曉

市民ならびに会員の皆様、あけましておめでとうございませう。

天皇陛下は、令和六年一月十九日の歌会始の儀で、「をちこちの旅路に会える人々の笑顔を見れば心和みぬ」と詠まれました。コロナが終息し、平和が訪れ、和やかな生活と暮らしが平生になることを願う歌です。

正に高山市内は、外国人や国内の観光客で賑わいと気が漲っています。また、各文化団体をはじめ、様々なグループや団体の文化会館の利用者が非常に多くなっており、当協会が主催している初心者講座も、昨年あたりから一段と応募が増えました。市民の皆様は、自由な学びの世界を求めて、生涯学習に勤しんでいます。令和五年から六年にかけては、小中学校や文化団体の周年行事が目白押しで、私も多数参加させていただきました。その式典で掲げ

られたスローガンの多くは『温故知新』でした。

私は会長就任のとき、高山市文化協会の指針に『温故知新』を掲げました。「故きを温ねて新しきを知れば、以て師と為るべし」(出典：論語為政)とは、過去のモノ・コトを研究し吟味すれば、そこから高度な境地に到達でき、新しい知恵や技が生まれることだと考えているからです。

福沢諭吉は『学問ノススメ』の中で、「専ら勤しむべき道は人間普通日用に近き実学なり」と説き、また裏千家茶道家元の千宗室氏は、「長く続いてきているものを知り、学ぶことが『稽古』です。それによって『今』が見えてきます」と述べられています。

「稽古」という言葉は、『日若稽古』(ここにいたがいていにしえをかんがえる)(出典：書経)から来ていると言われており、つまり日々

修行に励み、古書を読み、そこから先人の教えを学ぶことです。

市民一人ひとりが文化を高めることは、高山市が伝統文化を継承する国際都市を目指すことにつながります。SDGsの十七の目標の中の十一番目に、「住み続けられるまちづくり」があります。豊かな自然と伝統文化は、未来の子供たちへの宝です。

高山市文化協会は、心と技の力で、文化によるまちづくりを目指すことを誓い、新年のあいさつとさせていただきます。

文化功労者を顕彰

高山市文化協会では、永年に亘り郷土の文化振興とその発展に寄与された方を顕彰しています。本年は個人1名と1団体を1月1日の新年市民互礼会にて表彰します。(敬称略・順不同)



小瀬節子
(七十九歳)

生田流箏曲 瀬音会 会主

永年に亘り、邦楽の指導と演奏を通じて地域の文化振興に大きく貢献されたその功績。



江名子バンドリ保存会
(平成五年設立)

国指定重要無形民俗文化財

江戸時代から続く江名子バンドリの製作技術を継承するため活動されてきたその功績。

(一社)高山市文化協会加盟団体
文化協会後援 催事案内

ヤマハピアノコンクール
コサカ楽器選考会

◇日時 一月十八日(土) 午前10時～20時

◇会場 文化会館小ホール

午前 幼児、B部門 / 午後 A、B、C部門

◇入場無料

高山市民憲章推進協議会講演会

「家庭で楽しむ子どものための音楽」講師・青島広志氏

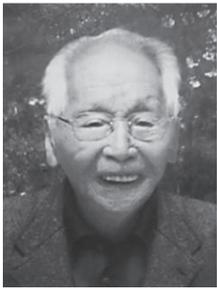
◇日時 一月十九日(日) 午後二時

◇会場 文化会館小ホール

◇入場無料

「昭和・平成を駆け抜けた父」
山腰 曠

山腰 進



山腰曠さんを偲ぶ企画展(位山交流館)

もに、たいへんありがたく心から感謝しております。

令和六年十月六日から十九日まで、一之宮町にある「位山交流館」において、父・曠の遺作展を開催していただきました。平成二十九年の父の死後、何度か計画されましたが、コロナ禍で日程が度々延期され、ようやく開催に至りました。

父は、大正十五年一月十日、旧宮村で生まれました。生家は貧しい分家の小作農で、尋常小学校しか行かせてもらえなかったとよく話してました。私に大学まで進むことを許してくれたのは、そんな悔しい思いがあったからだと思えます。父は、小さい時から家の農作業や炭焼きなどに祖父と従事していたようです。やがて太平洋戦争が始まり、昭和二十年に十九歳で海軍に召集され、広島まで行つたところで終戦を迎えました。原爆の直接的な影響は受けなかったものの、当時は広島市の近くにいたようです。戦後は地元で農林業に勤しみ、営林署で仕事をしたり、土建会社に勤めたりしてました。父は、昔から各家につけられていた屋号をはじめ、林業を通して得た巨木の位置や木材の運搬に関する知識など、地元の民俗・歴史等についてよく知っていました。昭和初期から平成に至るまで、

戦争や農林業、会社員など多くの経験をしたからでしょう。しかし、村内の会社に勤めていた五十四歳の時、産業事故に遭い、右腕を失ってしまいました。驚いたのは、手術の翌日に早々と左手で字の練習を始めたことです。その後、水墨画に出会い、六十五歳頃からは日本画を始めました。特に、「臥龍桜」を中心に描いていました。樹齢千年を超える臥龍桜は、台風で枝が折れても、残った枝からまた花が咲きます。その生き様を自分の人生と重ね合わせていたのかもしれない。尋常小学校五年生の時、習字で「なせばなるなさねばならぬ何事もならぬは人のなさぬなりけり」と書いています。その時代の影響もあると思いますが、当時の父の揺るぎない志が偲べれます。

*

絵画以外にも、民俗・歴史等の様々な分野に興味や関心を持ち、また、地域の事にも熱心に取り組み、旧宮村の村議会議員をはじめ、教育委員や文化協会会長も務めました。家の田畑作業では、片腕が無いことを感じさせないほど普通に機械を操っていました。しかし、失った右腕については「感覚的にあるような気がする」「天候が悪くなると傷口が痛む」などよく語っていました。リンパ腫と診断を受けて入院していた病院で症状が急変し、平成二十九年五月六日、静かに永眠しました。その日は、水無神社の大祭の最終日でもありました。享年九十二歳。苦しい生活を体験し、戦争と平和を経て、産業が発展した昭和から平成にかけての激動の時代を強い意志を持って駆け抜けた人だったと思います。



企画展で展示された作品「萬開」

父の死から七年が経ち、作品の所有者の中にはお亡くなりになられた方もいて、作品が集まるか不安でしたが、どれも丁寧に保存されており、六十点余りの作品を展示することができました。期間中の来場者は四百名を超え、父の思い出を語られる方や何度も足を運ばれる方もいて、皆さんに支えられた人生であったことを改めて実感すると

農作業で疲れていても、夜遅くまで描画していた姿をよく覚えています。精力的に作品の制作に励み、県展や市展のほか、臥龍桜日本画大賞展、サロンデポザール展などに出品し、各種の賞や、高山市文化協会功労顕彰表彰などをいただきました。

令和六年度道伝えの日

お月見歌会 入選歌発表

◎一般の部 課題歌「月」
雁部貞夫選

- 滑落し動かぬ邦人登山家を夜毎照らすかカラコ
ルムの月 鶴見 輝子
- K2に永遠にとどまる登山家に冴え冴え響く月
のララバイ 中島 芳子
- 鍵盤を敏深き指の滑りゆくフジコヘミングの「月
光」は冴ゆ 青木 真知子
- 不登校の児らと作りしお月見の団子にねがう
一夜の和み 谷口 茂雄
- 滑落し動かぬ邦人登山家を夜毎照らすかカラコ
ルムの月 鶴見 輝子

◎一般の部 自由歌
雁部貞夫選

- 未来へも過去へも行ける恋もする三十一文字の
旅果てしなし 三尾 幸子
- 天を衝くヒノキの美林気は澄みて天保時代のど
わめき届く 田中 彰
- 腕いっぱい広げしタオルに風呂あがりの四・七キ
口しかと受け止む 横山 美保子
- 形見なる衣に残るしつけ糸ほどよき緩さの母の
子育て 熊崎 佐千子
- 近況を語れる吾に旧友は句読点打つやうにうな
づく 倉坪 芳江

◎高校生の部 課題歌「月」

- 第一席 まだ恋を知らぬ一口照らすよう春色の月ティカップ
に揺れ 飛騨神岡高等学校 三年 井上 歩香
- 桐山吾朗選

令和六年度道伝えの日

芭蕉忌句会 入賞句発表

- 第二席 毎月窓に昇りくる十五夜をベッドから追う僕の
かぐや姫 吉城高等学校 一年 清水 雷馬
- 第三席 「月にまで笑われてるな」と自嘲する行く先なんて
分からぬ宵闇 吉城高等学校 一年 上谷 紗希

◎一般の部 兼題句「芭蕉忌」
大野鶴士選

- 芭蕉忌や虫が当たりて日の
障子 山本 史子
- 尼寺に一門集ひ桃青忌
芭蕉忌や棹ごとおらる渡り鳥 榎本 洋子
- 吉田 紀美子
- 互選一席 時雨忌や軒下少しゆづりあふ
徳島 ふみ子
- 互選二席 芭蕉忌や小さき罫あるくいな笛
山崎 元宏
- 互選三席 芭蕉忌や彩雲誘ふ旅心
大滝 篤子

◎一般の部 当季雑詠句(秋冬)
大野鶴士選

- 僧の説く娑婆よ浄土よ曼珠
沙華 柴田 恭子
- 通らねば道も途絶へし芭蕉
の忌 田村 喜栄
- 芭蕉忌の風のこゑきく大枯
野 役田 八重子
- 就活や兄の背中中は秋時雨
二年 益田 侑英
- 茶碗蒸し銀杏なしはわた
し用 一年 森本 真帆
- 顔見えず会話で終わる道
の秋 一年 佐藤 美有佳
- 飛ばしつと母の小言と秋
時雨 二年 瀨本 小羽

「風目(目)」

清少納言は「春はあけぼの」と言っただけで、高山は「上三之町もあけぼの」と言いたい。「やうやう白くなりゆく山ぎは少し明かりて」の朝、家々の軒下に昔ながらの電灯が優しく光る。

早起きして観光客や市民がチラホラと歩いているだけで、日中のごった返す人波が嘘のようで心休まる。

上三之町の奇蹟とでも言ううか、周辺の景色が激変していく中で、よく昔のままに残り続けていると感心する。木造の街並の美しさ。

オーバーツーリズムでものすごい数の観光客が訪れる観光ブランド地、高山。どんどんお金を落としていって欲しい。市の税収も上がるし雇用も景気も良くなる。

だからこそ守り残すべき宝物の景色がある。上三之町のあけぼのを新年の光の中で見直したい。

飛騨には昔から「相場崩し」という言葉がある。社会、集団の秩序や方針に協調せず勝手な行動をすること、又その人(岩島周一著「飛騨の方言」)、とある。相場崩しはどこにもある。(ガンモン筆)

も造業
こ夢事

和柄をつかってアートしちゃう!

八月八日〜九日開催

日本の伝統柄をランチョンマットとガラスボトルに写し、オリジナリティあふれる作品が出来上がりました。



ランチョンマット製作



ガラスボトル製作

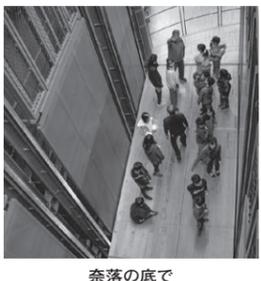
小学校芸術鑑賞事業(音楽)を開催

十月七日〜九日開催
一昨年から各小学校を回って開催している「青島広志のおしゃべり音楽会」も、今年で全地域を回り終えました。

今年、北・山王・西・江名子・岩滝・東・丹生川の各学校を巡り、約千八百名の児童に鑑賞していただきました。青島先生には、一月十九日に開催する市民憲章推進協議会の文化講演会において、この音楽会の様子などを語っていただきます。ぜひご来場ください。



金箔ボトル製作中



奈落の底で

飾り物展
令和7年 新春
干支の「巳」と歌会始のお題「夢」
1月17日(金)~19日(日)
午前10時~午後5時(最終日は午後4時まで)
入場無料
主催 高山市/(一社)高山市文化協会
共催 高山市飾り物保存会

高山市文化協会賛助会員

文化協会の活動を支えていただいている法人等です。ご支援ありがとうございます。

株式会社 伊千呂
株式会社 伊藤薬局
株式会社 岩佐鐵工所
打保法律事務所
株式会社 打保屋
エンジェルムーン クラスタフィットネススタジオ・ズンパチム
遠藤隆浩税理士事務所
株式会社 大垣共立銀行
柏木工 株式会社
株式会社 栗本生花店
有限会社 コサカ楽器
阪下法律事務所
山都印刷 株式会社
株式会社 三礼
株式会社 十六銀行 高山支店
株式会社 松華堂文具店
新興自動車 株式会社
崇教 眞光
株式会社 洲さき
株式会社 スズキ薬局
特定医療法人人生仁会 須田病院
株式会社 駿河屋魚一
株式会社 瀬木油店
株式会社 第一産業高山本店

高山金融協会
株式会社 高山グリーンホテル
高山市商店街振興組合連合会
株式会社 高山市民時報社
高山信用金庫
高山米穀協業組合
高山祭屋台保存技術協同組合
田中勝彦税理士事務所
株式会社 たびの恵み
株式会社 中日AVシステム 飛騨営業所
中部電力パワーグリッド(株) 高山支社
株式会社 トーエネック 高山営業所
なべかま
株式会社 鍋島商店
二木酒造 株式会社
株式会社 二反田工務店
日進木工 株式会社
株式会社 丹生川観光
濃飛乗合自動車 株式会社
株式会社 挾土組
飛騨印刷 株式会社
飛騨会計事務所
飛騨建設 株式会社
飛騨産業 株式会社

ヒダシキ 株式会社
飛騨信用組合
斐太ネクスト 株式会社
(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会
飛騨高山森林組合
株式会社 飛騨庭石
株式会社 ひだホテルプラザ
飛騨酪農農業協同組合
飛騨冷凍空調 株式会社
飛騨建設 株式会社
有限会社 平瀬酒造店
有限会社 フジ企画広告事務所
ブレーション企画 株式会社
平和メディク 株式会社

株式会社 ペガサスseiso
保険タイム 株式会社
前越路子税理士事務所
株式会社 丸進工機
丸仲建設 株式会社
有限会社 丸山建築
株式会社 みの谷
名鉄観光サービス 株式会社 高山営業所
有限会社 モーツァルト
有限会社 モンビル
有限会社 ゆはら染工
有限会社 協陣
(50音順、敬称略)

会員募集しています!

高山市文化協会は、芸術・学術の普及と向上に関する事業を実施し、会員の皆様とともに地域の文化振興と発展に寄与することを目的として設立されている一般社団法人です。ぜひご入会していただき、高山の文化を応援してください。

年会費 個人 4,000円、団体 7,000円、賛助(企業) 12,000円

お申込み先 (一社)高山市文化協会 tel.0577-34-6550

●各種特典ございます。詳しくは、お問い合わせください。

そしや、みんなが やってみんか 音フェス

TAKAYAMA BAND FES

キッチンカーも
来るヨ!

〈音フェス参加バンド〉

PJY

Kamloops

南風

遊鳥

Stereo symphony

あろえなじー

3バース

Iris (アイリス)

冬の寒さをぶっ飛ばせ!
飛騨地域のアマチュアバンドが一堂に集まり、
雪を溶かすような熱い演奏を繰り広げる。
コタツに入ってぬくぬくするのも良いけど、
熱い演奏で魂から暖めよう!

2/23日

午後1時開演 一午後8時

高山市民文化会館 小ホール

入場無料(出入り自由)